2021年度 地区別教授者研究会 筆記試験の問題と解答

■東北地区（仙台）３月６日

〔１〕 色彩盛花様式本位における、谷渡りの扱いの要点について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

[イ] に花型構成し、 [ロ] 枚の偶数挿しにする。花留を丸水盤の [ハ] に置き、 [ニ] にする。葉に [ホ] の差をつけ、主枝は [ヘ] 、副枝は主枝の [ト]、中間に使う４枚の葉は主枝の [チ]、小葉２枚は主枝の１／２以下とする。主・副を規定の位置に挿し、中間４枚は二つ付の七宝の [リ] に挿して、[ヌ] の表現にし、その中心部に若い葉の表現として小葉２枚を向かい合わせに挿す。

・大小長短	・直立型	・２／３	・８	・４	・標準寸法
・１／２	・中心線上	・輪状の株立ち	・傾斜型	・１１	・２倍
・一株挿し	・大穴	・３／４	・眼前の草花	・一木挿し	・縦穴

〔２〕色彩盛花様式本位で、下記を主材とした取合せを解答用紙に記入しなさい。
ただし、取合せは３種で、花材の重複はしないこと。

主材	取　合　せ
アマリリス	アマリリス・
花菖蒲	花菖蒲・
いちはつ	いちはつ・
アガパンサス	アガパンサス・
玉しだ	玉しだ・

〔３〕いけばな史に現れる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

○ 本朝挿花百練

［１］時代後期、［２］を興した未生斎一甫が口述した指導書。基本の花形を［３］に当てはめ、これを鱗と称し、［４］の宇宙観と［５］の理論によって生花の構成を説き、単に指導書というだけでなく、いけばな理論書としても貴重である。

○ 御飾記

［６］時代の［７］の秘伝書。相阿弥が伝授したもの。相阿弥は［８］の孫にあたり、［９］としての経験と知識を図解しながらまとめたものが本書である。内容は［１０］邸などの座敷飾りの詳細である。

・座敷飾り	・室町	・観阿弥	・天地和合	・同朋衆	・直角二等辺三角形
・明治	・風致景観	・未生流	・足利義満	・江戸	・不等辺三角形
・草月流	・足利義政	・文人	・森羅万象	・能阿弥	・虚実等分

◆解答

〔1〕

［イ］　傾斜型　　［ロ］　8　　［ハ］　中心線上　［ニ］　一株挿し　［ホ］大小長短

［ヘ］　標準寸法　［ト］　3／4　［チ］　2／3　　［リ］　縦穴　　［ヌ］　輪状の株立ち

〔2〕 ※この取合せの解答は一例です

主材	取　合　せ
アマリリス	アマリリス　菜の花　マーガレット
花菖蒲	花菖蒲　紫陽花　なでしこ
いちはつ	いちはつ　あざみ　天門冬
アガパンサス	アガパンサス　夏菊　鳴子百合
玉しだ	玉しだ　カーネーション　ルピナス

〔3〕

［1］江戸　［2］未生流　［3］直角二等辺三角形　［4］天地和合　［5］虚実等分

［6］室町　［7］座敷飾り　［8］能阿弥　［9］同朋衆　［10］足利義政

■東北地区（仙台）３月７日

〔1〕 写景盛花様式本位における、春の燕子花の三株いけと、初夏の燕子花の五株いけの挿法について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

● 春

春には［イ］の表組、裏組、［ロ］、水切り葉を用い、下は広く上は締まるようにうぶな感じにふっくらと組む。［ハ］は早春より成長して高くなるが、葉組より高くなることはない。早春より主・副の株と客株とに［ニ］の変化がついてくる。

● 初夏

一つの［ホ］の中に夏挿しと春挿しの［ヘ］を用い、［ト］の部分は花は葉より高く、［チ］の部分は花は葉よりも低く挿し、葉組は夏挿しの部分は二枚組の表組、裏組、［リ］の３種、春挿しの部分は二枚組の裏組、五枚組、［ヌ］を用い丈を低めに挿す。

・長短	・子株	・夏挿し	・水切り葉	・二枚組	・虫食い葉
・花留め	・一木挿し	・五枚組	・両挿法	・実	・親株
・春挿し	・花	・省略	・三枚組	・日蔭	・器

〔2〕花菖蒲を主材として、下記にしたがって取合せを解答用紙に記入しなさい（ただし、主材以外は重複しないこと）。

		取　合　せ
1	色彩盛花様式本位（三種）	花菖蒲・
2	色彩盛花様式本位（三種）	花菖蒲・
3	写景盛花様式本位（二種）	花菖蒲・
4	写景盛花自然本位（三種）	花菖蒲・
5	写景盛花自然本位（五種）	花菖蒲・

〔3〕次の人物について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

〇世阿弥

室町時代初期の［1］。観阿弥の子。足利［2］・義持に仕え、［3］を優雅なものに洗練するとともに、これに芸術論の基礎を与えた。「［4］ 」「花鏡（かきょう）」「申楽談義（さるがくだんぎ）」など２３部の著がある。

〇能阿弥

室町時代の連歌師・画家。足利［5］の同朋衆で、水墨画をよくしたほか、鑑定・茶道・香道・連歌などに通じ、「［6］」はその著という。その子に芸阿弥、孫に［7］ がいる。

〇俵屋宗達

江戸時代前期の画家。［8］を新時代的に解釈し、大胆な構成と流派にとらわれない自由で独特な画風で装飾的な新様式を創造し、［9］の祖とされる。代表作は「［１０］」「関屋図屏風」など。

・大和絵	・尊氏	・相阿弥	・花伝書	・刀剣	・風神雷神図屏風
・音阿弥	・義満	・公家	・義昭	・能役者	・君台観左右帳記
・槐記	・琳派	・能楽	・南画	・義政	・洛中洛外図屏風

◆解答

〔1〕[イ] 二枚組　[ロ] 五枚組　[ハ] 花　[ニ] 長短　[ホ] 器
[ヘ] 両挿法　[ト] 夏挿し　[チ] 春挿し　[リ] 三枚組　[ヌ] 水切り葉

〔2〕**※この取合せの解答は一例です**

		取　合　せ
1	色彩盛花様式本位（三種）	花菖蒲　紫陽花　なでしこ
2	色彩盛花様式本位（三種）	花菖蒲　いぼた　夏菊
3	写景盛花様式本位（二種）	花菖蒲　河骨
4	写景盛花自然本位（三種）	花菖蒲　蓮（浮き葉　巻き葉）雪柳
5	写景盛花自然本位（五種）	花菖蒲　未央柳　太藺　睡蓮　浮草

〔3〕

[1] 能役者　[2] 義満　[3] 能楽　[4] 花伝書　[5] 義政
[6] 君台観左右帳記　[7] 相阿弥　[8] 大和絵　[9] 琳派　[10] 風神雷神図屏風

■関東信越地区（東京前期）４月１７日

〔1〕色彩盛花様式本位における、谷渡りの扱いの要点について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

［イ］に花型構成し、［ロ］枚の偶数挿しにする。花留を丸水盤の［ハ］に置き、［ニ］にする。葉に［ホ］の差をつけ、主枝は［ヘ］、副枝は主枝の［ト］、中間に使う４枚の葉は主枝の［チ］、小葉２枚は主枝の１／２以下とする。主・副を規定の位置に挿し、中間４枚は二つ付の七宝の［リ］に挿して、［ヌ］の表現にし、その中心部に若い葉の表現として小葉２枚を向かい合わせに挿す。

・大小長短	・直立型	・２／３	・８	・４	・標準寸法
・１／２	・中心線上	・輪状の株立ち	・傾斜型	・１１	・２倍
・一株挿し	・大穴	・３／４	・眼前の草花	・一木挿し	・縦穴

〔2〕色彩盛花様式本位で、下記を主材とした取合せを解答用紙に記入しなさい。
ただし、取合せは３種で、花材の重複はしないこと。

主材	取　合　せ
アマリリス	アマリリス・
花菖蒲	花菖蒲・
いちはつ	いちはつ・
万年青	万年青・
玉しだ	玉しだ・

〔3〕次の文章は、三世家元小原豊雲先生と四世家元小原夏樹先生の業績を箇条書きしたものです。空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

○ 小原 豊雲先生

１．［A］いけばなの全国的な運動の端緒を作った。
２．［B］にヒントを得たいけばな様式の創造。
３．いけばなの［C］によって国際親善に寄与。
４．［D］組織の確立。
５．華道界はじめての［E］の確立。

○ 小原 夏樹先生

１．1985 年に従来の盛花の表現形式とは異なった［F］を創案した。
２．1990 年には［G］“まわる”“ひらく”“ならぶ”の３つのタイプを創案し小原流いけばなの新しい動きを提起した。
３．1979 年より［H］を毎年開催し、流内の［Ｉ］と自由な創作表現を認め、新人の育成に努めた。

４．［Ｊ］に積極的に力を注ぎ、その母体を作り上げた。

・年金制度	・色彩盛花	・公募展	・海外紹介	・財団法人	・花型図の制定
・近代	・青年部活動	・前衛	・社団法人	・一斉教授	・マイ・イケバナ
・自然盛花	・琳派絵画	・花意匠	・教授者組織	・花舞	・立華

◆解答

〔1〕

[イ] 傾斜型　[ロ] ８　[ハ] 中心線上　[ニ] 一株挿し　[ホ] 大小長短
[ヘ] 標準寸法　[ト] ３／４　[チ] ２／３　[リ] 縦穴　[ヌ] 輪状の株立ち

〔2〕**※この取合せの解答は一例です**

主材	取　合　せ
アマリリス	アマリリス　菜の花　マーガレット
花菖蒲	花菖蒲　紫陽花　なでしこ
いちはつ	いちはつ　あざみ　天門冬
万年青	万年青　蠟梅　ばら
玉しだ	玉しだ　カーネーション　ルピナス

〔3〕

[A] 前衛　[B] 琳派絵画　[C] 海外紹介　[D] 財団法人　[E] 年金制度
[F] 花舞　[G] 花意匠　[H] マイ・イケバナ　[I] 公募展　[J] 青年部活動

■関東信越地区（東京前期）４月１８日

〔1〕写景盛花様式本位の下記の挿法について、空欄に該当する語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

◎　一木挿し

梅・［イ］など、遠景で［ロ］を表現する際の技法。［ハ］に花型を構成する。まず主枝の［ニ］ほどの長さの木を挿し、その木を中心に主枝・副枝・［ホ］を根元をきつく寄せて挿す。副枝は主枝と同寸にして主枝との間隔を広くとる。

◎　一株挿し

［ヘ］・芽出し紫陽花など、中景で［ト］になった木々の姿を表現する際の技法。直立型または［チ］に花型を構成する。主枝・［リ］・中間枝の根元を寄せて挿す技法であるが、遠景の一木挿しよりは挿し口をゆるやかにする。 また ［ヌ］・河骨など、株になって生えている状態を表現するものも株挿しと呼ぶ。

・中間枝	・同寸	・万年青	・客枝	・下垂型	・低木状の茂み
・傾斜型	・桜	・副枝	・眼前の草花	・半分	・木瓜
・南国の景観	・観水型	・１本の大樹	・２倍	・直立型	・輪状の株立ち

〔2〕花菖蒲を主材として、下記にしたがって取合せを、解答用紙に記入しなさい（ただし、主材以外は重複しないこと）。

		取　合　せ
1	色彩盛花様式本位（三種）	花菖蒲・
2	色彩盛花様式本位（三種）	花菖蒲・
3	写景盛花様式本位（二種）	花菖蒲・
4	写景盛花自然本位（三種）	花菖蒲・
5	写景盛花自然本位（五種）	花菖蒲・

〔3〕いけばな史にあらわれる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

○ **同朋衆**

［1］ 階級の職名。［2］時代にはじまり、幕府の雑務を勤め、［3］を司った僧体の小吏。阿弥号を名乗ったところから［4］とも呼ばれる。唐物鑑定や［5］に秀で、初期いけばなにたずさわった。

○ **狩野山楽**

［6］時代の［7］。［8］に仕えた。画風は豪放であると同時に装飾的。代表作は妙心寺の「［9］」・［１０］の「牡丹紅梅図」といった障壁画などがある。

・阿弥衆	・鎌倉	・武家	・豊臣秀吉	・大覚寺	・寛永三筆
・画家	・茶事	・足利義政	・室町	・造園	・燕子花図屏風
・公家	・座敷飾り	・安土桃山	・東大寺	・医師	・竜虎図

◆解答

〔1〕[イ] 桜　[ロ] １本の大樹　[ハ] 直立型　[二] 半分　[ホ] 中間
[ヘ] 木瓜　[ト] 低木状の茂み　[チ] 傾斜型　[リ] 副枝　[ヌ] 万年青

〔2〕**※この取合せの解答は一例です**

		取　合　せ
1	色彩盛花様式本位（三種）	花菖蒲　紫陽花　なでしこ
2	色彩盛花様式本位（三種）	花菖蒲　いぼた　夏菊
3	写景盛花様式本位（二種）	花菖蒲　河骨
4	写景盛花自然本位（三種）	花菖蒲　蓮（浮き葉　巻き葉）雪柳
5	写景盛花自然本位（五種）	花菖蒲　未央柳　太藺　睡蓮　浮草

〔3〕

[1] 武家　[2] 室町　[3] 茶事　[4] 阿弥衆　[5] 座敷飾り
[6] 安土桃山　[7] 画家　[8] 豊臣秀吉　[9] 竜虎図　[10] 大覚寺

■関東信越地区（静岡）４月４日

〔1〕色彩盛花様式本位における、谷渡りの扱いの要点について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

［A］に花型構成し、［B］枚の偶数挿しにする。花留を丸水盤の［C］に置き、［D］にする。葉に［E］の差をつけ、主枝は［F］、副枝は主枝の［G］、中間に使う４枚の葉は主枝の［H］、小葉２枚は主枝の１／２以下とする。主・副を規定の位置に挿し、中間４枚は二つ付の七宝の［Ｉ］に挿して、［Ｊ］の表現にし、その中心部に若い葉の表現として小葉２枚を向かい合わせに挿す。

・大小長短	・直立型	・２／３	・８	・４	・標準寸法
・１／２	・中心線上	・輪状の株立ち	・傾斜型	・１１	・２倍
・一株挿し	・大穴	・３／４	・眼前の草花	・一木挿し	・縦穴

〔2〕いちはつを使って、下記にしたがった取合せを解答用紙に記入しなさい（ただし、主材以外は重複しないこと）。

		取　合　せ
1	色彩盛花色彩本位	いちはつ・
2	〃	いちはつ・
3	色彩盛花様式本位	いちはつ・
4	〃	いちはつ・
5	写景盛花様式本位 (基本取合せ)	いちはつ・

〔3〕次の人物について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

〇狩野永徳

［イ］時代の画家。［ロ］、［ハ］に仕え、画風は壮大豪放で安土城・［ニ］・大坂城などの障壁画のほか、御物『唐獅子図屏風』『　［ホ］　』などがある。

〇尾形光琳

［へ］時代中期の画家。本阿弥光悦・［ト］の図案的な画風を学び、［チ］を完成させた。
また陶磁器の絵つけや蒔絵・染織にも卓抜な意匠で名高い。［リ］の兄。代表作に『　［ヌ］　』『紅白梅図屏風』などがある。

・俵屋宗達	・聚楽第	・明治	・尾形乾山	・豊臣秀吉	・北野天神縁起絵巻
・江戸	・織田信長	・桂離宮	・御飾記	・安土桃山	・燕子花図屏風
・文人画	・池坊専応	・装飾的様式	・藤掛似水	・足利義政	・洛中洛外図屏風

◆解答

〔1〕

[A] 傾斜型　[B] 8　[C] 中心線上　[D] 一株挿し　[E] 大小長短
[F] 標準寸法　[G] 3／4　[H] 2／3　[I] 縦穴　[J] 輪状の株立ち

〔2〕※1～4の取合せの解答は一例です

		取　合　せ
1	色彩盛花色彩本位	いちはつ　山吹　芍薬
2	〃	いちはつ　ライラック　あざみ
3	色彩盛花様式本位	いちはつ　木苺　あざみ
4	〃	いちはつ　れんげつつじ　都忘れ
5	写景盛花様式本位 (基本取合せ)	いちはつ　都忘れ　日蔭

〔3〕

[イ] 安土桃山　[ロ] 織田信長　[ハ] 豊臣秀吉　[ニ] 聚楽第　[ホ] 洛中洛外図屏風
[ヘ] 江戸　[ト] 俵屋宗達　[チ] 装飾的様式　[リ] 尾形乾山　[ヌ] 燕子花図屏風

■中国地区（岡山）４月２５日

〔1〕色彩盛花様式本位における、菊の三種挿しの扱いの要点について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

一輪咲きの［イ］３種類（黄［ロ］本・赤３本・［ハ］３本）を用いることが基準。
直立型に花型構成し、主枝・[ニ]・中間に［ホ］色、客枝・中間に白、中間を[ヘ］系統の花色とする。　直立型の花型の基本を守って挿すが、主枝・副枝の［ト］の奥行より、副枝から［チ］への［リ］の広がりのほうが［ヌ］なるように構成しなければならない。

・前後	・白	・小菊	・5	・下草	・客枝
・緑	・上下	・副枝	・黄	・長く	・近景
・中菊	・7	・短く	・左右	・主枝	・赤

〔2〕写景盛花様式本位の春の中景描写の基本取合せを解答用紙に記入しなさい。

取　合　せ
1.
2.
3.
4.

〔3〕いけばな史に現れる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

○君台観左右帳記

［1］時代の座敷飾りの秘伝書。著者は［2］ の同朋衆・［3］と伝えられている。君台とは［4］ の住居、左右とは侍者、帳記とは記録のこと。内容は前半で中国の画家約１５０名をあげて上中下の品等に分け、［5］の指針を示し、後半は座敷飾りの方式ならびに飾り付けの道具・器物を解説したものである。

○古田織部

［6］時代の武将・茶人。［7］の高弟。信長、［8］に仕え、後に徳川家に通じ［9］の茶の湯師範をし、当時の茶道・いけばなに新境地を開き、武家茶道の確立につとめた。茶陶に［１０］の原点をつくった。

・秀吉	・能阿弥	・小堀遠州	・安土桃山	・足利尊氏	・織部好み
・楽焼	・室町	・観阿弥	・足利義政	・秀忠	・琳派絵画
・家熙	・将軍	・平安	・千利休	・天皇	・唐絵鑑賞

◆解答

〔1〕[イ] 中菊　[ロ] 5　[ハ] 白　[ニ] 副枝　[ホ] 黄
[ヘ] 赤　[ト] 前後　[チ] 客枝　[リ] 左右　[ヌ] 長く

〔2〕

取　合　せ			
1．	木瓜	菜の花	日蔭
2．	芽出し紫陽花	紫蘭	日蔭
3．	芽出し木苺	燕子花	日蔭
4．	小松	乙女百合	日蔭

〔3〕
[1] 室町　[2] 足利義政　[3] 能阿弥　[4] 将軍　[5] 唐絵鑑賞
[6] 安土桃山　[7] 千利休　[8] 秀吉　[9] 秀忠　[10] 織部好み

■四国地区（高松）７月２５日

〔1〕写景盛花様式本位における海芋の挿法について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

夏の［ イ ］描写。［ ロ ］に構成する。［ ハ ］とする。一株の基本構成は、主・副を一株に挿す場合、葉［ ニ ］枚、花２本とし、客の株では葉３枚、花１本を基準とする。花は葉よりも［ ホ ］挿す。主は花を中心に葉を三方から添え、原則として二つ付の七宝の［ ヘ ］に挿す。

副の株は、主の花の後ろに使った葉と同じくらいの葉を用い、基本の副枝の位置に出るように挿す。したがって、副の花は傾け過ぎないこと。変化をつけるために、副の花は葉より低く、［ト］より短く挿す。根締まりのために副の花の［チ］に葉を添える。
客の株は、［リ］を中心に葉を三方から添え、そのうちの１枚を副とは［ヌ］に傾斜させ、前方に長く出るように挿す。役枝は花だが、実際の動きは葉が花型の基準の位置に挿されていることが要点である。

・高く	・一種挿し	・花	・直立型	・近景	・遠景
・前正面	・傾斜型	・一木挿し	・基本寸法	・実	・一株挿し
・５	・中景	・１３	・反対側	・大穴	・８

〔２〕夏の花材を使って琳派調いけばなの取合せを解答用紙に記入しなさい（同一花材が重複しないこと）。

			花　材
盛花	1	三種いけ	
	2	三種いけ	
	3	五種いけ	
	4	五種いけ	

〔３〕次の書物について、①、⑦には書物の名前の読みを、②～⑥、⑧～⑩の空欄には当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

〇瓶史（［①］）
［②］のいけばな書。著者は［③］時代の文人・［④］。中国文人の［⑤］を伝える専門の書として、日本人に最も親しまれたもの。瓶花の心得と観賞について記し、［⑥］が生花様式に展開していく過程で大きな影響を及ぼした。

〇専応口伝（［⑦］）
［⑧］時代末期、［⑨］によって書かれた［⑩］の伝書。本文は初期いけばなの相伝をまとめたものであるが、序文に専応のいけばな観が展開され、池坊の根幹をなす伝書というばかりでなく、いけばな理論書として現在も高く評価されている伝書である。

・琳派絵画	・立て花	・池坊専応	・中国	・盛花
・袁宏道	・明治	・抛入れ花	・室町	・鎌倉
・立華	・瓶花趣味	・明	・近衛予楽院	・文房飾り

◆解答

〔1〕

[イ] 近景　[ロ] 直立型　[ハ] 一株挿し　[ニ] 5　[ホ] 高く
[ヘ] 大穴　[ト] 基本寸法　[チ] 前正面　[リ] 花　[ヌ] 反対側

〔2〕**※この取合せの解答は一例です**

			花　材
盛花	1	三種いけ	立葵　紫陽花　薄
	2	三種いけ	燕子花　楓　おもだか
	3	五種いけ	燕子花　楓　おもだか　鉄線　なでしこ
	4	五種いけ	紫陽花　あざみ　笹百合　鳴子百合　縞薄

〔3〕

① へいし　② 中国　③ 明　④ 袁宏道　⑤ 瓶花趣味　⑥ 抛入れ花
⑦ せんのうくでん（せんおうくでん）　⑧ 室町　⑨ 池坊専応　⑩ 立て花

■九州地区（福岡）１０月９日

〔1〕写景盛花様式本位における、夏と秋の燕子花の五株いけの挿法について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

○　夏

春の燕子花の [①] が [②] になり、二枚組の表組、裏組、三枚組が夏挿しの組葉となる。葉組は春と比較して [③] を締めて [④] をひらき、伸び伸びと生長した旺盛な姿に組む。花は葉組の上に高く 抜き出して使う。

○　秋

[⑤]、[⑥]、虫食い葉を葉組に混ぜて用い、葉組は夏より組葉を [⑦] 株数を少なめにし、葉組の上に [⑧] を高く抜き出して用い、[⑨] は葉組の間に低く挿す。様式本位でいける場合、原則として葉組するが、[⑩] の葉組では自然組を交えることもある。

・多く	・水切り葉	・下	・二枚組	・晩秋	・実
・三枚組	・日蔭	・垂れ葉	・早春	・上	・巻き葉
・睡蓮	・折れ葉	・少なく	・花	・五枚組	・山しだ

〔2〕色彩盛花様式本位で、下記を主材とした取合せを解答用紙に記入しなさい（取合せは３種とする）。

主　　材	取　　合　　せ（3種）
アガパンサス	アガパンサス・
ぎぼうし	ぎほうし・
紫　　苑	紫苑・
谷 渡 り	谷渡り・
黄 中 菊	黄中菊・

〔3〕下記の人物について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

○　長谷川等伯

［イ］時代の画家。［ロ］の祖。水墨画に巧みで、また絢爛な花鳥画もよくした。
我が国最初の画論とされる『［ハ］』を著す。代表作は『［ニ］』『［ホ］』など。

○　小堀遠州

江戸時代前期の茶人・［へ］。茶道を［ト］に学び新たに一流を創始した、［チ］の茶道指南。遠江守で遠州と称する。［リ］・和歌・いけばな・建築・陶磁・造園に巧みであった。［ヌ］・孤篷庵は彼の作とされている。

・造園家	・狩野派	・徳川家	・等伯画説	・聚楽第	・松林図屏風
・安土桃山	・絵画	・武野紹鷗	・御飾記	・猿猴図	・洛中洛外図屏風
・長谷川派	・足利家	・明治	・古田織部	・公家	・桂離宮

◆解答

〔1〕

①　五枚組　　②　三枚組　　③　下　　④　上　　⑤　垂れ葉（折れ葉）
⑥　折れ葉（垂れ葉）　⑦　多く　　⑧　実　　⑨　花　　⑩　晩秋

〔2〕**※この取合せの解答は一例です**

主　　材	取　　合　　せ（3種）
アガパンサス	アガパンサス　夏菊　鳴子百合
ぎぼうし	ぎほうし　ダリア　かるかや（または薄）
紫　　苑	紫苑　　鶏頭　小菊
谷 渡 り	谷渡り　ばら　デージー
黄 中 菊	黄中菊　赤中菊　白中菊

〔3〕

[イ] 安土桃山　[ロ] 長谷川派　[ハ] 等伯画説　[ニ] 松林図屏風（猿猴図）
[ホ] 猿猴図（松林図屏風）　[ヘ] 造園家　[ト] 古田織部
[チ] 徳川家　[リ] 絵画　[ヌ] 桂離宮

■九州地区（福岡）１０月１０日

〔1〕写景盛花様式本位の下記の挿法について、空欄に該当する語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

◎　一木挿し

梅・ **イ** など、遠景で **ロ** を表現する際の技法。 **ハ** に花型を構成する。まず主枝の **ニ** ほどの長さの木を挿し、その木を中心に主枝・副枝・ **ホ** を根元をきつく寄せて挿す。副枝は主枝と同寸にして主枝との間隔を広くとる。

◎　一株挿し

ヘ ・芽出し紫陽花など、中景で **ト** になった木々の姿を表現する際の技法。直立型または **チ** に花型を構成する。主枝・ **リ** ・中間枝の根元を寄せて挿す技法であるが、遠景の一木挿しよりは挿し口をゆるやかにする。　また **ヌ** ・河骨など、株になって生えている状態を表現するものも株挿しと呼ぶ。

・中間枝	・同寸	・万年青	・客枝	・下垂型	・低木状の茂み
・傾斜型	・桜	・副枝	・眼前の草花	・半分	・木瓜
・南国の景観	・観水型	・１本の大樹	・２倍	・直立型	・輪状の株立ち

〔2〕秋の花材を使って、文人調いけばな（３種）の取合せを解答用紙に記入しなさい（花材の重複はしないこと）。

	条　件	取　合　せ　花　材（3種）
1	瓶 花	
2	瓶 花	
3	瓶 花	
4	盛 花	

〔3〕次の人物について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

○　世阿弥

室町時代初期の **①** 。観阿弥の子。足利 **②** ・義持に仕え、 **③** を優雅なものに洗練するとともに、これに芸術論の基礎を与えた。「 **④** 」「花鏡（かきょう）」「申楽談義（さるがくだんぎ）」など２３部の著がある。

○　能阿弥

室町時代の連歌師・画家。足利 ⑤ の同朋衆で、水墨画をよくしたほか、鑑定・茶道・香道・連歌などに通じ、「 ⑥ 」はその著という。その子に芸阿弥、孫に ⑦ がいる。

○　俵屋宗達

江戸時代前期の画家。 ⑧ を新時代的に解釈し、大胆な構成と流派にとらわれない自由で独特な画風で装飾的な新様式を創造し、 ⑨ の祖とされる。代表作は「 ⑩ 」「関屋図屏風」など。

・大和絵	・尊氏	・相阿弥	・花伝書	・刀剣	・風神雷神図屏風
・音阿弥	・義満	・公家	・義昭	・能役者	・君台観左右帳記
・槐記	・琳派	・能楽	・南画	・義政	・洛中洛外図屏風

◆解答

〔1〕

[イ] 桜　[ロ] １本の大樹　[ハ] 直立型　[ニ] 半分　[ホ] 中間
[ヘ] 木瓜　[ト] 低木状の茂み　[チ] 傾斜型　[リ] 副枝　[ヌ] 万年青

〔2〕※この取合せの解答は一例です

	条　件	取　合　せ　花　材（3種）
1	瓶 花	柘榴　蓮の実と枯れ葉　二輪菊
2	瓶 花	実木瓜　秋明菊　ほととぎす
3	瓶 花	野いばら　枇杷　鶏頭
4	盛 花	雁来紅（葉鶏頭も可）　葦　豆柿

〔3〕

① 能役者　② 義満　③ 能楽　④ 花伝書　⑤ 義政
⑥ 君台観左右帳記　⑦ 相阿弥　⑧ 大和絵　⑨ 琳派　⑩ 風神雷神図屏風

■関東・信越地区（東京後期）１１月６日

〔1〕色彩盛花様式本位における、万年青の扱いの要点について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

A に花型構成し、実 **B** 本、葉 **C** 枚の偶数で **D** にする。
E 枚を親株とし、 **F** 枚を子株と見て構成する。葉に大小長短の差をつけ、二つ付の七宝の大穴・横穴に挿していく。
G の挿し方に準拠するが、実を **H** の根元に挿し、 **I** の⑧の葉を１株の **J** の右後ろに挿す点が異なる。

・6	・9	・最後部	・傾斜型	・副枝	・色彩盛花色彩本位
・直立型	・中間枝	・水切り葉	・8	・子株	・1
・2	・一株挿し	・13	・三枚組	・一木挿し	・写景盛花様式本位

〔2〕冬の花材を使った文人調いけばなの取合せを解答用紙に記入しなさい（ただし、花材の重複は避けること）。

	条　件	取　合　せ　花　材
1	瓶　花	
2	瓶　花	
3	盛　花	
4	盛　花	

〔3〕下記の人物について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

○　狩野山楽

イ 時代の画家。 **ロ** に仕えた。画風は豪放であると同時に **ハ** 。
代表作は妙心寺の「 **ニ** 」・ **ホ** の「牡丹紅梅図」といった障壁画などがある。

○　俵屋宗達

江戸時代前期の **ヘ** 。 **ト** を新時代的に解釈し、大胆な構成と流派にとらわれない自由で独特な画風で装飾的な新様式を創造し、 **チ** の祖とされる。代表作は「 **リ** 」「 **ヌ** 」など。

・大覚寺	・明治	・写実的	・豊臣秀吉	・侘茶	・風神雷神図屏風
・装飾的	・大和絵	・足利義政	・安土桃山	・画家	・猿猴図
・竜虎図	・公家	・桂離宮	・琳派	・文人画	・関谷図屏風

◆解答

〔1〕

[A]　直立型　　[B]　1　　[C]　8　　[D]　一株挿し　　[E]　6　　[F]　2
[G]　写景盛花様式本位　　[H]　副枝　　[I]　子株　　[J]　最後部

〔2〕**※この取合せの解答は一例です**

	条　件	取　合　せ　花　材
1	瓶 花	梅　　椿　　裏白
2	瓶 花	蠟梅　　水仙　　小松
3	瓶 花	老松　　ばら　　矢竹
4	盛 花	桐　　万年青　　菊

〔3〕

[イ] 安土桃山　[ロ] 豊臣秀吉　[ハ] 装飾的　[ニ] 竜虎図　[ホ] 大覚寺
[ヘ] 画家　[ト] 大和絵　[チ] 琳派　[リ] 風神雷神図屏風　[ヌ] 関谷図屏風

■関東・信越地区（東京後期）１１月７日

〔1〕写景盛花様式本位の下記の挿法について、空欄に該当する語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

◎　一木挿し

梅・ A など、遠景で B を表現する際の技法。 C に花型を構成する。まず主枝の D ほどの長さの木を挿し、その木を中心に主枝・副枝・ E を根元をきつく寄せて挿す。副枝は主枝と同寸にして主枝との間隔を広くとる。

◎　一株挿し

F ・芽出し紫陽花など、中景で G になった木々の姿を表現する際の技法。直立型または H に花型を構成する。主枝・ I ・中間枝の根元を寄せて挿す技法であるが、遠景の一木挿しよりは挿し口をゆるやかにする。また J ・河骨など、株になって生えている状態を表現するものも株挿しと呼ぶ。

・中間枝	・同寸	・万年青	・客枝	・下垂型	・低木状の茂み
・傾斜型	・桜	・副枝	・眼前の草花	・半分	・木瓜
・南国の景観	・観水型	・１本の大樹	・２倍	・直立型	・輪状の株立ち

〔2〕下表の項目に従った取合せを、解答用紙に記入しなさい。

	形式	区分	条件	取　合　せ
1	盛花	写景盛花自然本位	水仙を使って五種挿し	
2	盛花	写景盛花様式本位（基本取合せ外）	万年青を使って五種挿し	
3	盛花	色彩盛花色彩本位	冬の花材で五種挿し	
4	瓶花		正月花の五種挿し	

〔3〕いけばな史における次の事項について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

〇立　華

江戸時代に ① が大成した、 ② を用いて構成するいけばな様式。立て花からの発展で、枝容をさまざまに矯め整え、床飾などにするもの。立華、 ③ 、胴束の３形

式がある。

○文人花

［④］中期から末期に文人たちがいけたいけばな、またその精神を汲んだ形式にとらわれない花。［⑤］を基本とし、［⑥］にあらわれた植物とその取合せをふまえる。投げ入れ形式が主で、［⑦］も行われる。

○投げ入れ

［⑧］中期、盛花を創案した［⑨］が、水盤にいける盛花に対して、瓶型の花器にいける様式として、伝統的な古典の［⑩］を指導的に体系化したもの。瓶花とも呼ぶ。

・盛物	・池坊専応	・江戸	・抛入れ花	・茶花	・南画画題
・琳派絵画	・砂之物	・小原光雲	・七つ道具	・安土桃山	・君台観左右帳記
・二代専好	・天地人	・明治	・中国趣味	・生花	・小原雲心

◆解答

〔1〕 [A] 桜　[B] １本の大樹　[C] 直立型　[D] 半分　[E] 中間枝
[F] 木瓜　[G] 低木状の茂み　[H] 傾斜型　[I] 副枝　[J] 万年青

〔2〕 **※この取合せの解答は一例です**

	形式	区分	条件	取　合　せ
1	盛花	写景盛花自然本位	水仙を使って五種挿し	水仙・石化柳・椿・寒菊・晒し山しだ
2	盛花	写景盛花様式本位（基本取合せ外）	万年青を使って五種挿し	万年青・小松・水仙・寒菊・日蔭
3	盛花	色彩盛花色彩本位	冬の花材で五種挿し	ユーカリ・アイリス・玉菊・玉しだ・らっぱ水仙
4	瓶花		正月花の五種挿し	苔梅・若松・枝垂れ柳・藪椿・白小菊

〔3〕
① 二代専好　② 七つ道具　③ 砂之物　④ 江戸　⑤ 中国趣味
⑥ 南画画題　⑦ 盛物　⑧ 明治　⑨ 小原雲心　⑩ 抛入れ花